

大里支部の活動から

鉢形城歴史館、鉢形城跡を見学して

平成30年9月6日(木)に寄居町の鉢形城歴史館を会場に大里支部の役員理事会・研修会を開催しました。理事会は短時間で終了し、引き続き歴史館館長の石塚三夫氏から鉢形城の歴史や歴史館についてお話をいただきました。その後、天気にも恵まれたので石塚館長に鉢形城歴史館と公園内を案内していただきました。この地方の戦国時代、鉢形城の歴史、鉢形城歴史館、鉢形城公園のことなど興味深い内容で、参加の皆さんは時間の立つのを忘れてお話に聞き入っていました。



鉢形城跡の概要

鉢形城跡は、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和7年に国指定史跡となりました。城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれていて、天然の要害をなしています。この地は、交通の要所に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点でした。

鉢形城は、文明8年(1476)関東管領であった山内上杉氏の家臣長尾景春が築城したと伝えられています。後に、この地域の豪族藤田泰邦に入婿した小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し、現在の大きさとなりました。関東地方において有数の規模を誇る鉢形城は、北関東支配の拠点として、さらに甲斐・信濃からの侵攻への備えとして重要な役割を担いました。



鉢形城歴史館の外観



館内の鉢形城復元模型で説明

この地を統治しました。

なお、鉢形城跡は「日本100名城」(平成18年、日本城郭協会認定)、「日本の歴史公園100選」(平成19年、都市公園法施行50周年等記念事業実行委員会選定)などに選ばれています。

公園内の見どころ

鉢形城跡では堀や土塁が良く残り、堀や土塁によって区切られた本曲輪や二の曲輪などの空間が現在でも確認することができます。

なお、二の曲輪・三の曲輪・笹曲輪は平成9年度から13年度にかけて発掘調査が行われ、その成果をもとに、馬出や堀・土塁の復元整備が進められました。特に、三の曲輪では戦国



荒川越しに寄居市街を眺める

天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、攻防戦を展開しました。1ヶ月余りにおよぶ籠城の後に、北条氏邦は城兵の助命を条件に開城しました。

開城後は徳川氏の関東入国に伴い家康配下の成瀬正一・日下部定好が代官となり、



本曲輪跡の田山花袋歌碑の説明

時代の築城技術を今に伝える石積み土塁や四脚門、池などが復元されています。なお、鉢形城歴史館は外曲輪の一角に建てられています。

また、園内の遊歩道は、深沢川が織りなす溪谷やカタクリ群生地、寄居町指定天然記念物エドヒガンを巡り、四季折々の景観が楽しめる公園となっています。